

一 般 演 題

1. $^{99m}\text{Tc-MIBI}$, $^{99m}\text{Tc-Tetrofosmin}$ の P-gp 非依存性 MDR に関する基礎的検討

福本 光孝 黒原 篤志 早瀬 直子
吉田 大輔 吉田 祥二 (高知医大・放)

P-gp substrate である $^{99m}\text{Tc-Tetrofosmin}$ (TF) の MDR 予測への寄与の知見は少ない。P-gd MDR と Non P-gp MDR の予測可能性を MIBI, TF で検討。SW13 (ヒト副腎腫瘍) と Adr/VP 選択株 SW13/R, A549 (ヒト肺腺癌) とその Adr/VP 選択株 A549/R を使用。これらは MRK-16 FCM により定量され、A549/R の MDR は Non P-gp MDR であることを明らかにした。kinetics から MIBI, TF は P-gp MDR 予測で近似する挙動を示すが、Non P-gp MDR において MIBI は sensitive との間に有意差がなかった。TF は低い uptake, 速い washout を示した。TF の Non P-gp MDR 予測への寄与の可能性を示した。

2. 卵巣奇形腫摘出後の甲状腺癌組織を有する残存腫瘍に対し、 ^{131}I 内用療法が施行された 1 例

本山 和美 原 晶子 久米 典彦
菅 一能 松永 尚文 (山口大・放)

稀な悪性卵巣甲状腺腫に対し、 ^{131}I 内用療法を試みたので、その治療効果および臨床経過を報告した。症例は 49 歳、女性で骨盤部腫瘍がみられ、病理組織および ^{131}I scintigraphy で悪性卵巣甲状腺腫と診断された。術後、化学療法が施行されたが無効で、甲状腺摘出術の後、残存腫瘍に対して 3 回の ^{131}I 内用療法と放射線外照射が施行された。thyroglobulin 値の変動や画像所見からある程度治療効果は得られたと考えられたが、時間経過とともに CA-125 値や ^{201}Tl の腫瘍への集積比が上昇傾向を示し、甲状腺組織以外のコンポーネントの増大が推測された。また、本症例では 3 回の内用療法直後には常に thyroglobulin 値と CA-125 値の一過性の上昇がみられ、治療効果のモニター上留意すべき点と考えられた。

3. 結節性甲状腺腫の濾胞性病変における ^{201}Tl シンチグラフィと穿刺吸引細胞診の診断能の比較検討

奥村 能啓 佐藤 修平 小松めぐみ
小林 満 赤木 史郎 平木 祥夫
(岡山大・放)

結節性甲状腺腫の濾胞性病変 41 症例に対して、 ^{201}Tl シンチグラフィと穿刺吸引細胞診の診断能を比較検討した。 ^{201}Tl シンチグラフィは視覚的にスコア化し一部に定量的評価を加え、washout pattern 分類をした。濾胞性病変においては穿刺吸引細胞診は良悪性の診断に苦慮することが多いと言われ、今回の検討でも sensitivity は ^{201}Tl シンチグラフィが 80.0～86.7%，穿刺吸引細胞診は 13.3～40.0%，accuracy も ^{201}Tl シンチグラフィが 70.7～87.8%，穿刺吸引細胞診は 65.9% とともに低値であった。 ^{201}Tl シンチグラフィの画像を視覚的にスコア化し、さらに一部に定量的評価を加えることで簡便にかつ正確に良悪性の鑑別ができると考えられた。

4. $^{99m}\text{Tc-GSA}$ 肝シンチグラフィによる肝予備能評価と肝線維化

河野 良寛 安藤 由智 中川 富夫
(国立福山病院・放)
坂田 龍彦 武田 功 淵本 定儀
(同・外)
平木 祥夫 (岡山大・放)

[はじめに] 肝切除例の組織学的線維化の程度と $^{99m}\text{Tc-GSA}$ 肝シンチの核医学指標との関連を中心に検討した。[対象および方法] 手術が施行された肝腫瘍 27 例。術前に $^{99m}\text{Tc-GSA}$ 肝シンチを施行し、核医学指標として LHL_{15} , HH_{15} , LU_{15} を算出。肝線維化の程度は組織学的に F0～F3 まで grade 分類を行い、核医学指標および ICGR_{15} , 肝体積と対比した。[結果およびまとめ] 線維化の程度は、 HH_{15} , LU_{15} , LHL_{15} , ICGR_{15} などと相関したが、 ICGR_{15} より核医学指標との相関が強かった。 HH_{15} , LU_{15} では F0